

2024_0115「落葉松と三日月（動画）」日々の理科 3448号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

天体写真を撮る時は、当然観望対象である天体にピントを合わせます。これは対象が恒星でも衛星でも惑星でも同じです。地球唯一の「天然の衛星」である月を撮影する場合も、普通はいかに月面にピントを合わせるかに神経を使うのが普通です。

昨夜の三日月（正確には「三日月型の月」）は、北軽井沢に設置したカメラを東京から遠隔操作して撮影しました。カメラは首振りやズーム、露出を自由に変えられますが、さすがに固定されたカメラの位置までは変えられません。月が沈む時刻が近づくと、落葉松の枝が邪魔してしまいました。

普通はそのあたりであきらめるのですが、私はあえて「手前の落葉松の枝」にピントを合わせて、月をぼかして撮ってみました。これが実に不気味で且つ芸術的な動画になりました。ウェーバーの歌劇「魔弾の射手」の2幕6場を思い出しました。悪魔ザミエルに魂を売ったカスパールが、どんな相手にも命中する「魔弾7発」を製造する場面です。魔物がうごめく「狼谷」に月がかかっているという設定です。（実際の歌劇の描写では「三日月」ではなく「月食中の月」）

今回の動画は「早回しなし」です。7分間の月の動きです。落葉松の枝には、時々月の明かりのシルエットで、丸いものが映ります。これは冬でも枝に残っている落葉松の実（球果）です。

（2024年1月中旬／北軽井沢／東京から遠隔観測）

